

小城市立幼稚園・保育園の再編計画（案）

令和 年 月

小 城 市

1. はじめに

公立保育園・幼稚園の再編計画については、近年の少子化の進行、核家族化や就業する女性の増加など社会情勢の変化や小城市の子どもや子育てを取り巻く環境の変化に合わせ、平成20年の策定から平成26年、平成30年と必要に応じて見直しをおこなってきました。

今回は、前回から5年が経過し、当時と比べると教育・保育のニーズの変化や、園児数の減少、施設の老朽化など、子育てを取り巻く環境が大きく変化しています。

については、再編計画も現在の社会情勢や小城市の現状にあった見直しの必要性があることから見直しをするものです。

これにより、子育て環境の変化への対応と施設の適切な整備を行うために、より充実した教育・保育の提供ができると考えます。

2. 小城市の現状と課題

小城市全体の園児数については、人口の緩やかな減少等により、教育・保育施設に通園する園児数が減少傾向となっています。全体として園児数は微減の傾向ですが、内訳を見ますと幼稚園等に通う3歳から5歳の教育認定（1号）の子どもの減少が著しく、保育園等に通う0歳から2歳の保育認定（3号）の子どもは増加傾向となっています。

また、公立の園は老朽化が進行しており、安全に利用するため、施設維持のために修繕が続いています。私立の園は、国の補助金を活用し、園舎の改築等をおこない、併せて定員数の増員が進んでいます。しかしながら、保育士不足のために定員数については未確保の状況となっています。

- ・人口の緩やかな減少等による園児数の減少
- ・共働き世帯の増加による保育認定の増加
- ・保育所等の認定こども園化や、新規保育施設の認可による施設数の増
- ・公立の園の施設の老朽化の進行及び安全性確保のための修繕費の増
- ・保育士不足による定員数の未確保

3. 再編計画の進捗状況

再編計画がスタートして、当初8園あった公立の園のうち、4園を民営化しました。このことにより、公立の園は令和5年度時点で4園となりました。また、保育ニーズの高まりに対応するため、令和3年度から三日月幼稚園を認定こども園に移行し0歳から2歳も入園できるようにしました。

年度	園名	経過
平成23年度	牛津保育所	民営化
平成29年度	芦刈幼稚園	民営化
平成30年度	岩松保育園	民営化
令和3年度	三里保育園	民営化
〃	三日月幼稚園	認定こども園に移行

4. 今後の公立の園のあり方

公立園のあり方について下記の項目を慎重に検討します。また残る公立の園については、規範となる保育・幼児教育施設のあり方を示し、小城市の子どもの最終的な受け皿となるように努めます。

- ・人口の減少による園児数の減少
- ・市内全体の教育・保育の需要と供給のバランス
- ・市内全体の将来的な園児数の見込みと定員数の確保
- ・公立の園の老朽化への対応

5. 再編計画基本方針

近年の小城市の子どもを取り巻く環境の変化、将来の教育・保育の需要及び公立の園の老朽化を鑑み、閉園を含めて公立の幼児教育・保育施設の適正配置に努めます。

- (1) 将来の教育・保育ニーズに備えた、公立の園の民営化や閉園による再編成
- (2) 小城市内の幼児教育・保育の規範となる、公立の幼保一体型拠点施設の運営

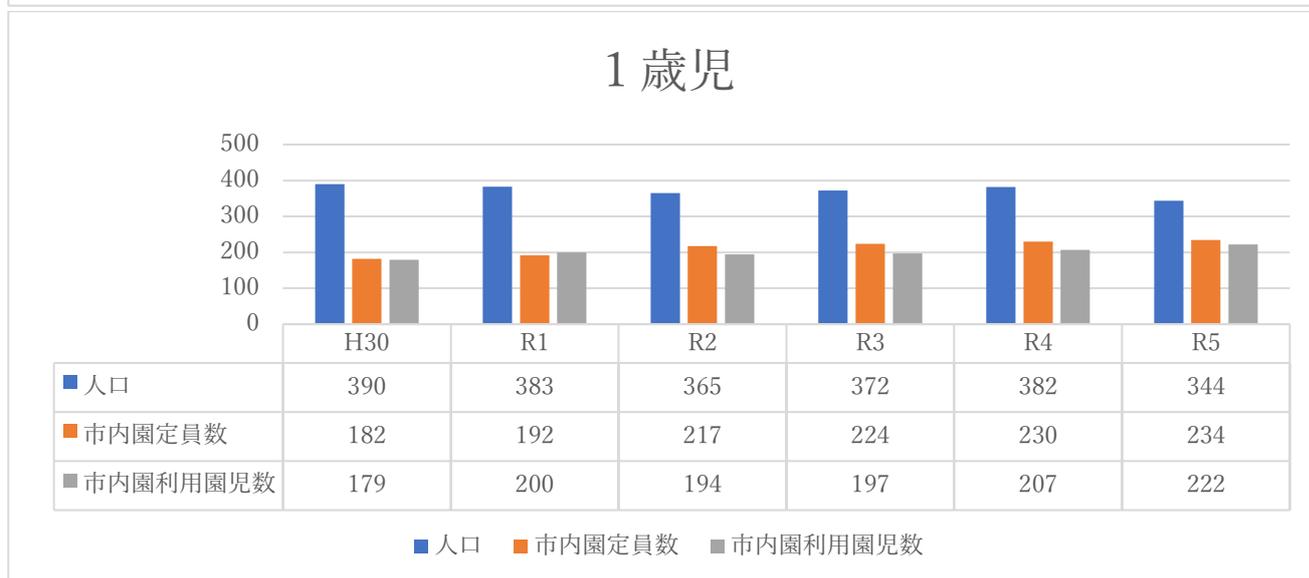
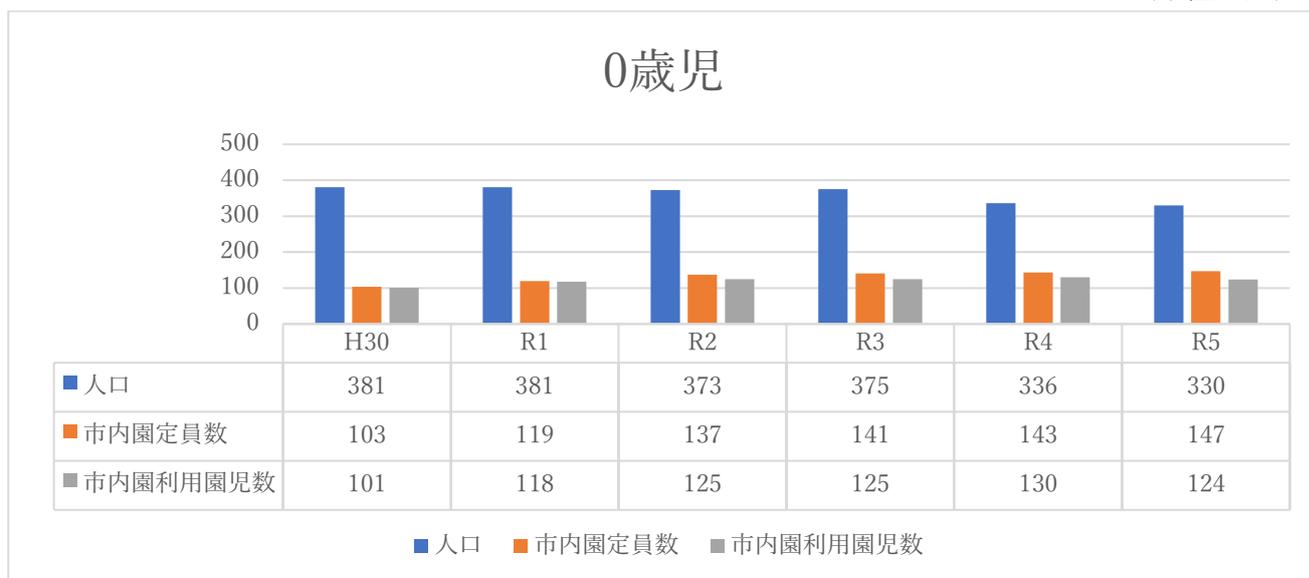
1. 年齢別人口・園児数

- ・人口 …各年度3月時点の人数
- ・市内園定員数 …各施設・事業の類型に応じた利用可能な園児の人数
- ・市内園利用園児数…市内の施設を利用している園児の人数（市外者を含む）

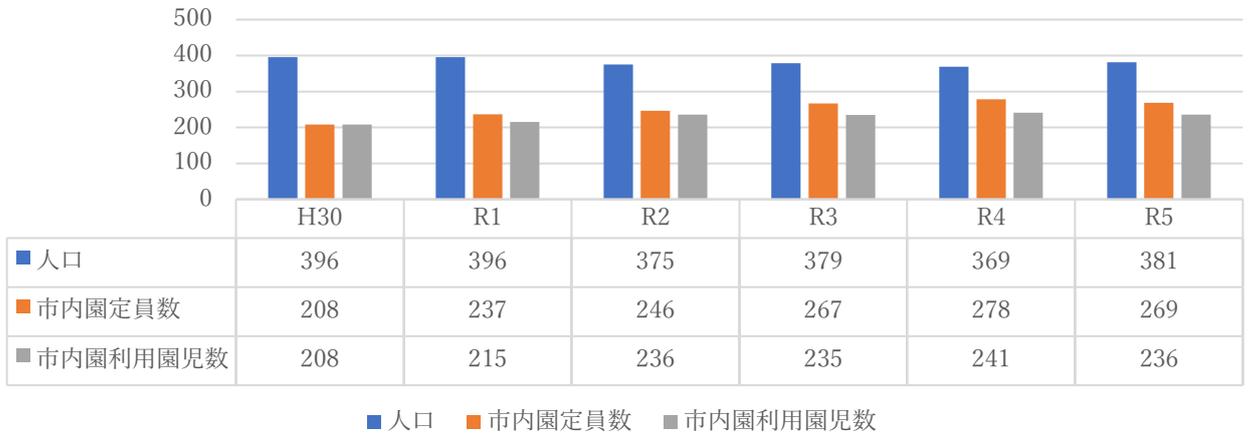
※定員数とは、預かる子ども一人当たりの面積基準や保育士の配置基準によって決められた人数

※人数は事業所内保育施設の事業所枠及び企業主導型の施設を除く

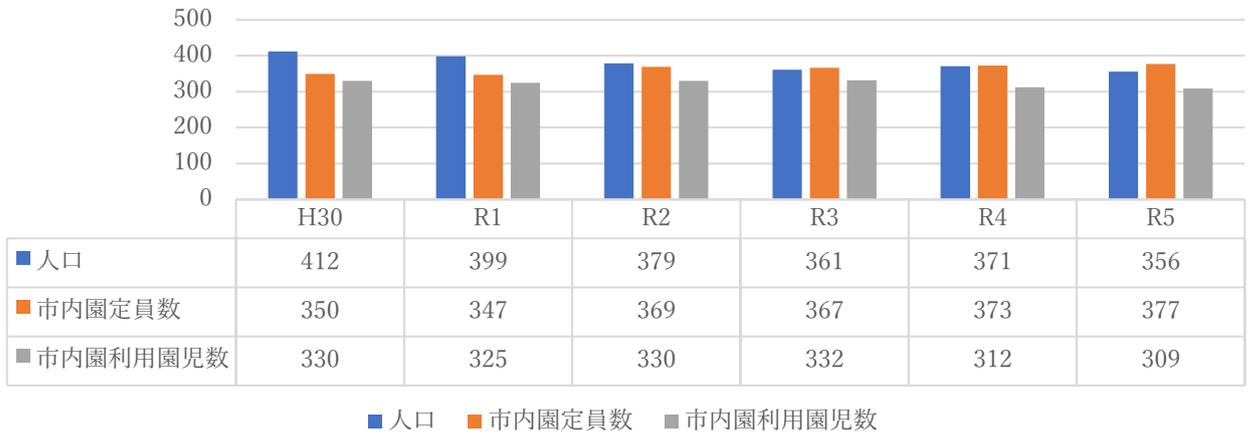
(単位：人)



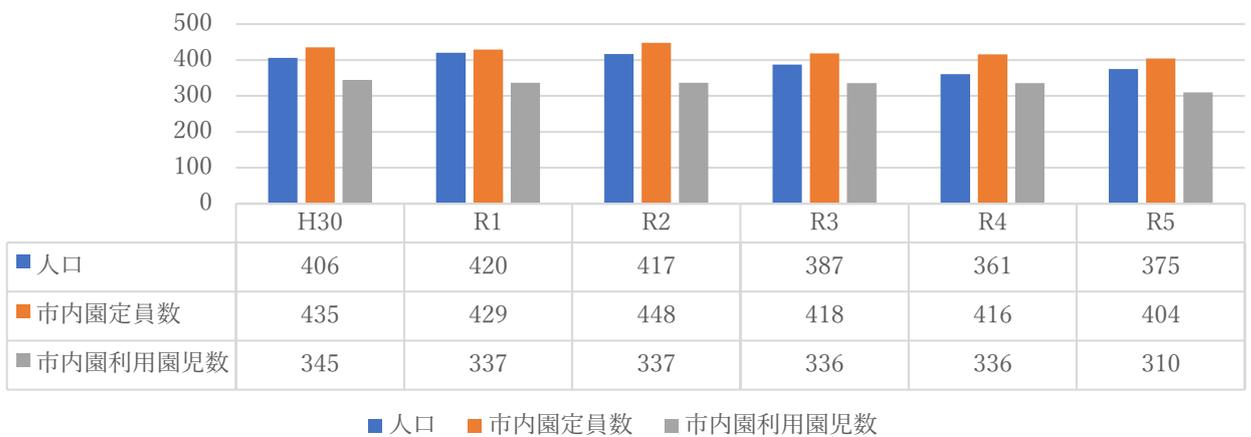
2 歳児



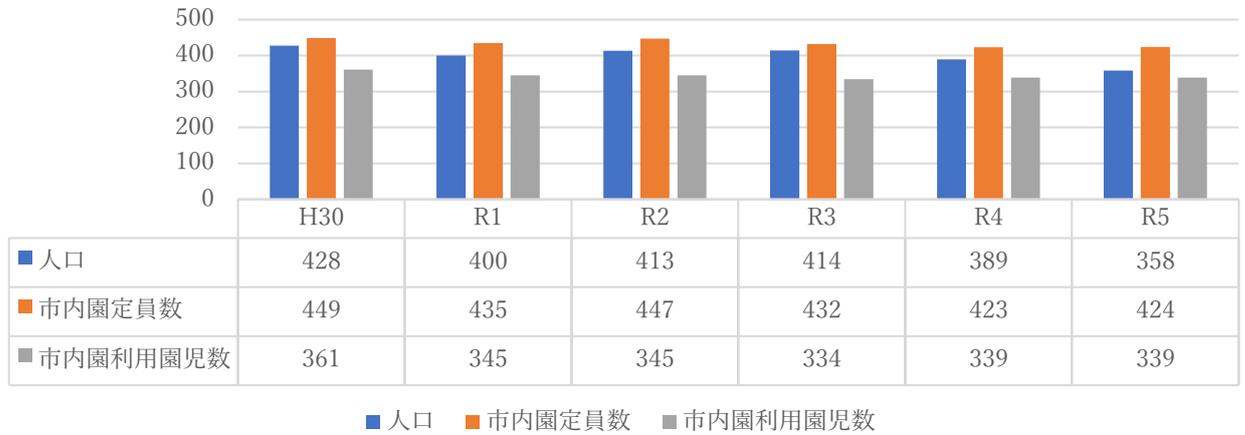
3 歳児



4 歳児



5 歳児

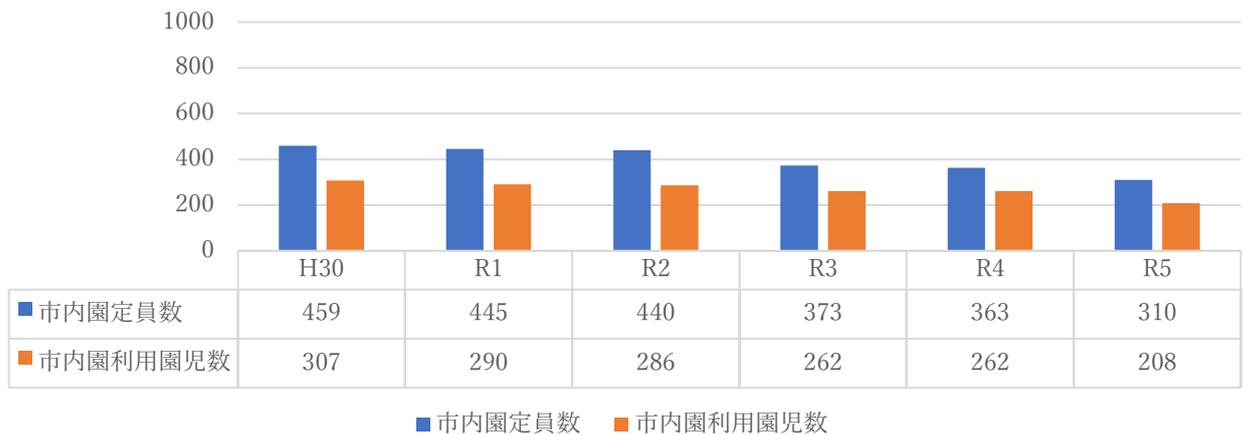


2. 認定別園児数

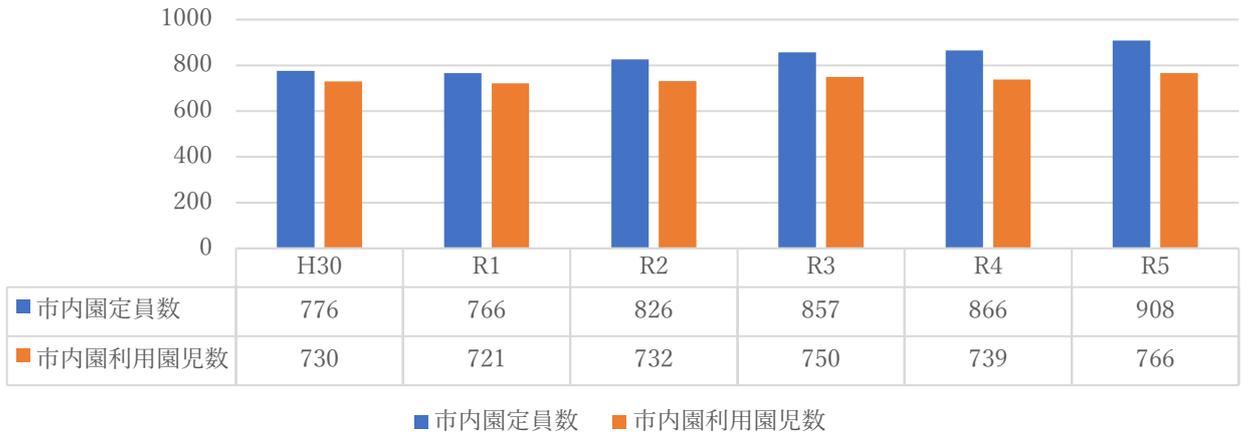
- ・ 1号認定…満3歳から5歳の教育認定（幼稚園、認定こども園を利用）
- ・ 2号認定…3歳から5歳の保育認定（小規模施設、保育園、認定こども園等を利用）
- ・ 3号認定…0歳から2歳の保育認定（小規模施設、保育園、認定こども園等を利用）

(単位：人)

1号認定



2号認定



3号認定

